課題番号28

安定生産と効率化による地域農業の永続化

～　地域の絆で豊かさとゆとりを！　～

対象：江部乙2－2地区（5経営体〈2法人含む〉）

1　活動の背景

（R7）地域耕作面積：126ha うち水稲作付面積：86ha 経営主平均年齢：61歳（後継者2名）

高品質米生産への意欲が非常に高い ⇒ R3～6年　基盤整備事業実施
水稲の収量・品質を維持したい

地域耕作面積：開始年（R3）109ha →（R7）126ha ⇒ **19ha増加**

個人経営：**所得確保**

水稲　施設園芸　／　水稲　／　水稲

法人経営：**規模拡大に対応した省力化**

水稲　畑作　／　水稲　畑作　施設園芸

2　活動の経過

実証ほの設置・戸別巡回・青空教室などで農業者との情報共有を図り、提案技術の導入・定着を支援

農産物の生産振興

高品質米の安定生産

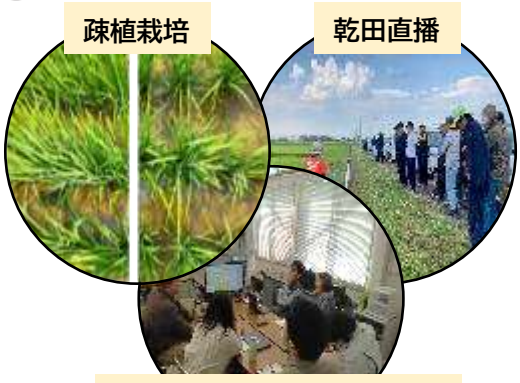
青空教室の開催 → 土壌断面調査の実施 → 定点調査ほの設置 → 個別面談

↑参考にした他地域の事例
「基盤整備ほ場の施肥の目安～窒素施肥量について～」
（2023年　上川農業改良普及センター大雪支所）

「基盤整備後ほ場は根が白い」

「Nを減肥してみましょう」

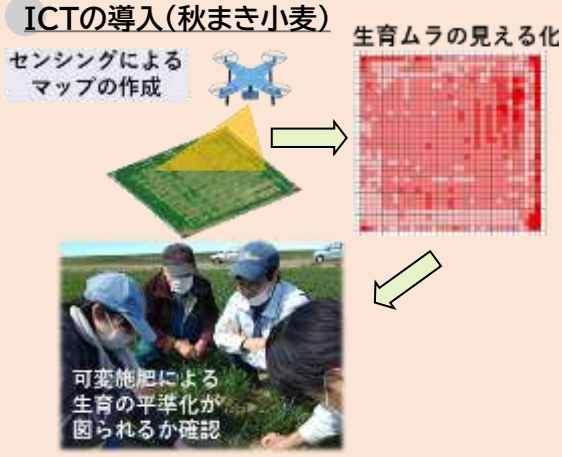
水稲省力・低コスト生産技術導入



今後の営農について
労働生産性シミュレーション

スマート農業の推進

ICTの導入（秋まき小麦）



3　成果の具体的内容　（現況→目標→実績　到達度 %）

農産物の生産振興

高品質米の安定生産〈基盤整備後の技術項目実施戸数　2戸→3戸→3戸　100%〉

基盤整備後の適正施肥量について農業者・関係機関と認識が共有された

農業者	適正施肥	収量(kg/10a)	蛋白質含有率(%)
B	○	576	6.2◎
C	○	639	5.9◎
E	○	648	7.2○

土壌断面調査は説得力があり、減肥を実践した！

減肥しても収量・品質に問題はなかった！

市内の新規導入者のモデル事例として活用

水稲省力・低コスト生産技術導入
〈リン酸・カリ減肥実施戸数　0戸→2戸→3戸 150%〉〈省力化技術導入戸数　0戸→2戸→2戸 100%〉

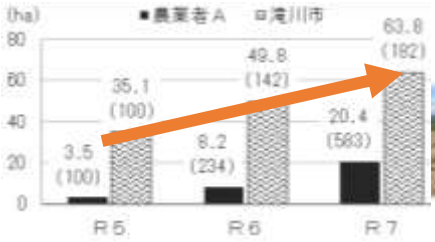
土壌診断に基づくリン酸・カリ減肥に取り組んだ結果、肥料費が12%削減できた

収量は慣行と同程度

	収量(kg/10a)	粗収益①(円/10a)	肥料費②(円/10a)	粗利益（①-②）(円/10a)
減肥区	571	121,813	8,743	113,070
慣行区	569	121,387	9,878	111,509
差	2	426	▲ 1,135	1,561
（慣行比）	(100)	(100)	(88)	(101)

※JAたきかわ令和５年度米出荷概算金単価、営農年度用肥料価格より算出（税込）

水稲栽培面積を移植から乾直に切り替えた
➡市内の乾直栽培面積は、年々増加傾向に



営農シミュレーションで作業性のギャップを確認！栽培管理を見直すきっかけに

シミュレーションと実際の労働時間にギャップがあることに気づく

・代かきを念入りにやり過ぎていた
・深植えになっている理由がわかった

代かき作業時間を短縮してみよう！

労働体系と栽培管理の見直しにつながった

スマート農業の推進

ICTの導入〈ｾﾝｼﾝｸﾞﾃﾞｰﾀ活用戸数　0戸→1戸→2戸　200%〉

地力マップと小麦の生育・収量差を確認

➡ほ場の特性の理解と栽培管理の見直しに

センシングへの理解を深め、小麦可変施肥中心に、他作物への活用を展開

➡全面積で栽培管理支援システム導入に至った（47.7ha）

大豆でもやってみよう！

4　今後の課題と対応

・水稲乾田直播技術は、作付面積の拡大が見込まれることから次年度以降も継続する
・スマート農業は、滝川市ICT農業利活用協議会と連携し、ICT技術の検証と地域へ定着への導入定着を図る